

経済産業省提出資料

平成30年9月28日

Society5.0に向けた経済産業省の取組について

これまでの取組

2017年3月 独・CeBITにて、安倍総理から、我が国産業が目指すべきコンセプトとして「Connected Industries」発表

2017年10月 世耕大臣から、Society5.0を実現する産業変革への取組として「Connected Industries東京イニシアチブ」発表。

リアルデータの利活用の観点から**重点5分野**を設定
「自動走行・移動サービス」「ものづくり・ロボティクス」「素材・バイオ」「プラント・インフラ保安」「スマートライフ」



安倍総理のスピーチ



世耕大臣と大臣懇談会のメンバー



J-startup企業のマッチングイベント

データ利活用

- 複数企業の産業データ連携・共有を促すための、基盤システム構築に向けた取組を支援（例：自動走行データ、航海データ）
- AIデータを利用したソフトウェア開発に関する契約についてのガイドライン策定

人材育成

- 「未踏」事業において、天才的なクリエイターを発掘・育成
- 社会人が高度な専門性を身に付けてキャリアアップを図るための「第四次産業革命スキル習得講座」の認定制度を開始

研究開発・実装・ベンチャー

- 産総研AIセンターを中核とした高度なAI基盤技術開発プロジェクトや、AIチップ・次世代コンピューティング技術の開発を推進
- AIベンチャー支援強化（データを保有する大手企業×AIベンチャーの開発支援、AIベンチャーを含むJ-startupプログラム開始）

「AI戦略案」を踏まえた今後の課題

1. アーキテクチャの設計・横展開

データ利活用に係る基盤構築等の取組に加えて、更にその前提となる**システムアーキテクチャの設計を進めることが必要ではないか。**

- Connected Industries重点5分野を手始めに、積極的に関係省庁と連携。課題・技術的知見・具体的事例を共有し、取組を横展開が重要。
- 我が国の強みであるリアルデータを生かす、AIやデータの連携に関する研究・開発の強化や、基盤構築への継続的な国の支援等十分な環境整備も重要。

2. 産業界の実課題へのチャレンジを通じた人材育成・技術の高度化
産業界の実課題と、それを解決できる国内外の人材・技術・アイデアを橋渡しする仕組みが必要ではないか。

- AI人材など各種教育プログラムの中においても、産業界の実課題を使ったPBL(Project Based Learning)の機会が重要であり、文部科学省や産業界等との協力が重要。
- 橋渡ししたものがベンチャーとして起業する流れを支援することも重要。

3. 国際発信

来年のG20(於日本)、G7(於仏)等の海外発信の機会を意識し、AIにより実現すべき世界の姿やメッセージを検討・発信することが必要ではないか。